



外傷予防 の取組

事故やけがで入院すると、体の痛みに加え、不自由な生活を強いられます。
今回は、入院患者の医療データ（※1）からみてきた、受傷の傾向などをご紹介します！

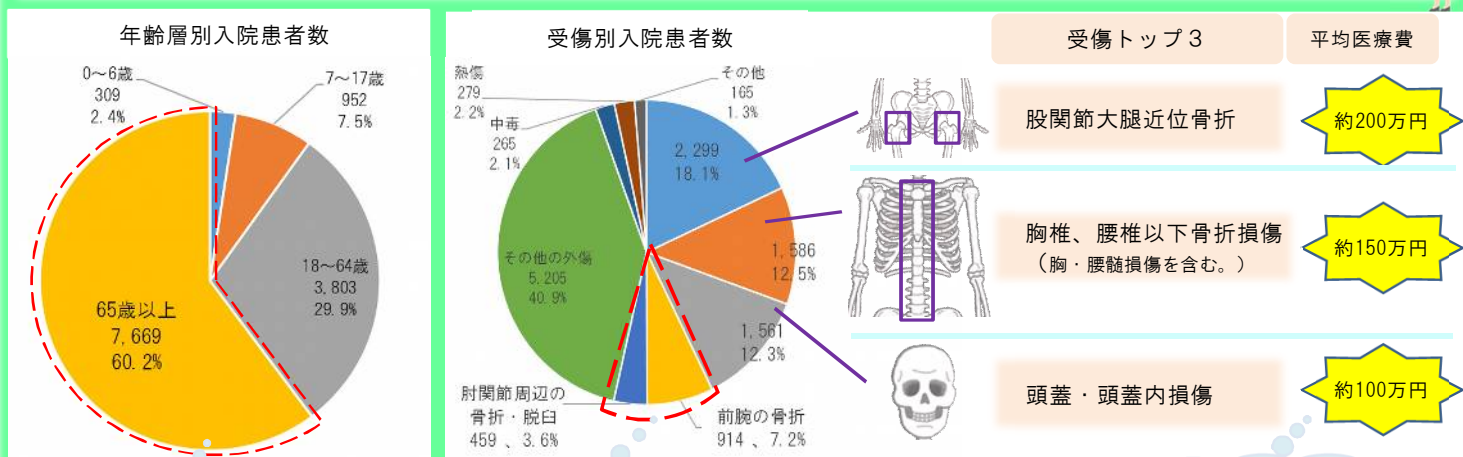
※1）鹿児島市内3病院に「外傷・熱傷・中毒」により入院した患者（救急入院を含む）の医療費等のデータ（2014～2018年度）



事故やけがによる入院患者の状況

事故やけがによる入院患者について年代別で分析すると、**高齢者が約6割**を占めており、入院につながるけがを負うリスクが高くなっています。受傷部位では、**股関節や胸椎・腰椎、頭蓋**など体のかなめとなる部分のけがが多く、退院までの**医療費は100万円以上**（※2）かかってしまいます。一たび入院すると、日常生活が奪われるだけでなく、経済的な損失も大きいことがデータから分かりますね。

※2）医療費は、入院期間中（回復期含む）に要したすべての請求額（10割）。食糧費、自由（自費）診療分除く。自賠責保険・労働災害保険を除く。医療機関別係数を除く。



高齢者が多くなっています。

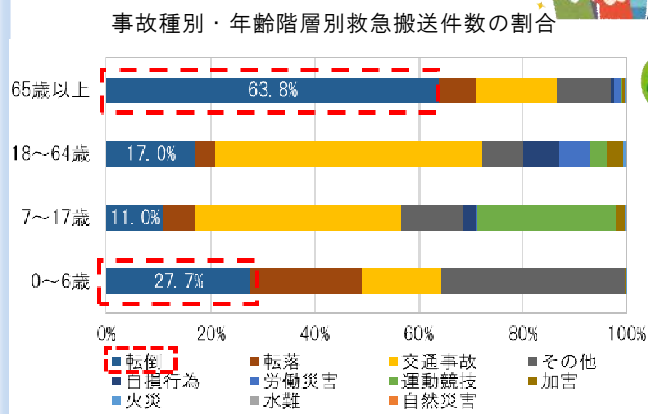
腕のけがも多く発生しています。

身体的なダメージに加え、**経済的な負担**もあります。

事故やけがの原因と予防のポイント

本市の入院患者の状況について確認しましたが、原因はどこにあるのでしょうか？

救急搬送データによると、**65歳以上の高齢者や0～6歳の子ども**で、**転倒**の割合が高くなっています。中でも、**自宅内での転倒**が多いようです。自宅でするけがの予防と一緒に取り組みましょう！



ポイント

住み慣れた自宅は安全だと思いがちですが、**わずかな段差**でもつまづく原因となります。住環境を整備することで、事故やけがを防ぎましょう！

- 自宅の中では**整理整頓**を心がけ、廊下等に不要物を置かない
- 段差に**目印のテープ**を貼る
- 家の中でスリッパをはかず、**素足かすべり止めつきの部屋履き**をはく
- 足元が暗い場所に**照明を設置**する

など



転倒の発生場所

※その他を除く

高齢者

- 1位 **自宅（敷地内含む）**
- 2位 道路・歩道
- 3位 老人福祉施設

子ども

- 1位 **自宅（敷地内含む）**
- 2位 商業・飲食・娯楽施設
- 3位 道路・歩道

自宅内の転倒場所

- 1位 **玄関・廊下**
- 2位 居間
- 3位 階段

